

会報

2012 ▶ 2013
WEEKLY REPORT



奉仕を通じて
平和を

田中作次

2012-13年度
国際ロータリー会長

留萌
ロータリークラブ
会長目標

ロータリーを楽しく・
学び・奉仕しよう

会長／山本讓二 幹事／森 幹雄

プログラム

- 本日
来賓卓話「議会改革への取り組み」
留萌市議会 議長 小野 敏雄 様
- 次週予定
来賓卓話「留萌アーカイブズ事業について」／移動例会

No. 2527

第11回 9月19日

出席報告

前
例
会

会員総数	43名
出免会員	10名
出免出席	8名
基準会員出席	20名
出席率	65. 11%

前
々
会

第 8 回 8 月 29 日

欠席会員	7名
内メイクアップ	3名
修正出席率	81. 39%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F

🖋️ 会長報告

- 留萌ライオンズクラブより、創立53周年記念チャーターナイトの案内状を頂きました。9月20日富丸にて開催されます。私が出席してきます。
- 国際ソプロチミスト留萌より、創立30周年記念誌を頂きました。皆様に回覧いたします。

📁 幹事報告

- ・妹背牛RCより8月会報と9月例会案内をいただきました。
- ・第49回交通安全スピードダウン旗の波運動の参加依頼を受領しました。社会奉仕委員会にお渡しいたします。

ゲスト

留萌地域人材開発センター

所 長 兜 克己様
研修課長 山田 透様

👤 委員会報告

前年度幹事

渡邊会員

前年度の会計報告をいたします。皆様のテーブルに会計報告書を配付いたしました。ご審査よろしくお願いいたします。

なお、各委員会の委員長さんは早めに活動報告を私まで提出して下さい。よろしくお願いいたします。

🎵 愛好会

カラオケ愛好会 高田会員

今月9月24日(月)午後6時30分よりワンポイントにて、今年度第1回目の例会を開催致します。会費は3000円。多数の会員の参加をお願いします。後ほどFAXを皆様に送信いたします。

📄 3分間情報

会員研修委員会 高田副委員長

1961年第5回例会(3月8日)会報より 出席者19名、出席率73.3%、欠席者9名、報告事項として例会の運営やスマイルボックスの規定検討、会員の親睦、チャーターナイトの構成について報告。テーブルスピーチとして、第1回は曾根崎ロータリアンより最近の死亡率の上昇についてスピーチがあり有意義であったと書かれておりました。

【ミニ情報】

障害者スポーツの祭典、第14回夏季パラリンピック・ロンドン大会は9日、ロンドン東部にある五輪スタジアムで閉会式が行われ、12日間の日程を終え幕を閉じた。参加国、地域、選手数ともに史上最多となった大会。閉会式では初の金メダルに輝いたゴールボール(視覚障害)女子の小宮正江主将が日本の旗手を務めた。日本が獲得したメダルは金5、銀5、銅6の計16個。

前回の北京大会から金メダル数は変わらなかったが、総数が27個から大幅に減った。陸上、自転車の不振が目立った一方で、団体競技種目の健闘が光った。次回大会は2016年ブラジルのリオデジャネイロで開催される。

👤 ニコニコBOX

・もうすぐ誕生日、また一つ歳をとる 前年度決算が出来ました 鈴木直前会長

前 回	235,000円
今 回	3,000円
累 計	238,000円

📄 プログラム

「留萌人材開発センターの役割」

留萌人材開発センター
所長 兜 克己様

留萌人材開発センター、通称パワスポ留萌の所長を務めます兜でございます。

本日は当センターの事業概要



につきましてご説明する機会をいただき、誠にありがとうございました。

実は私は、平成11年に丁度介護保険制度がスタートする段階で、制度の概要につきましてこの場でお話をした記憶がございます。当時は市の介護保険課長という立場でございましたが、今回で2回目になります。

私は平成20年から当センターの所長を仰せつかっておりますが、当時の会長さんが沖田周一さんでございました。現在はここにおられます対馬健一さんでございます。ちなみに初代の会長さんは対馬さんのお父様の対馬良行さんでございます。当センターは、元々は道立の高等技術専門学校で、職業訓練校として運営されておりました。年々生徒の数が減少し、やむなく閉校せざるを得なくなったという事で、平成6年に有志の方々が集まりまして、この地域の中に職業訓練校を無くしてはいけないという事で、「地域づくりは人づくり」のキャッチフレーズの元、今の人材開発センターが設立された訳でございます。

開設当初は企業の在職者、働いている方々の職業訓練が中心でございました。どちらかと言うと、建設土木関係の方が多かったと思います。最近では企業の方も景気が悪かったりして減少傾向にありますが、それにかわりまして失業者の再就職に向けた職業訓練が多くなってきております。これは主にパソコンでありますとか、あるいは医療事務・介護等の資格取得などの訓練でございます。当センターは平成6年からス

スタートをしておりますが、今年で18年目になります。これまでの利用人数を言いますと、48万人になります。年平均でいきますと2万6千人の方々に利用されております。これは勿論職業訓練ばかりでなく、施設の貸館であるとか、あるいは趣味の講座とか、全てを含めた数値になっておりますが、多くの方々に利用していただいております。これからも地域のニーズにあった、要望に沿った形で当施設を運営して参りたいと思っておりますので、今後とも皆様のご支援ご協力の程、よろしくお願い致します。

この後、当センターの具体的な事業、あるいは設立に至る経過等につきまして、開設当時からおります、研修課長の山田の方から説明をしたいと思っております。私の方からはこれで終わらせていただきます。ありがとうございました。

留萌人材開発センター
研修課長 山田 透 様

私は主に事業の計画・実施、それと職業訓練指導員として実際の指導、最近では求職者の方々の就職指導などをさせていただいております。



私がこれからご説明させていただくのは、当センターの設立経緯と事業内容等につきましてご説明させていただきます。パワーポイントにて作製しました資料を皆様のテーブルに配布してありますので、それを見ていただければと思います。

資料の表紙に「地域づくりは人づくり」と書かれておりますが、これは私事ですが平成5年当時、札幌にて勤めておりましたが体調を崩し一時留萌に帰ってきておりました。その時、たまたま地域人材開発センターのお話をいただきまして、当時は平成5年の12月ですから、ちょうど技術専門学院が建て替えの時期でございまして、プレハブ建ての校舎で当時の前田所長さんと市から派遣されていた麻林さんが熱く語っ

てくれた言葉が「地域づくりは人づくり」でございます。これを聞いてぜひとも私も奉職させていただきたいと思い、平成6年2月に採用していただきました。すでに18年が経過しております。

初めに概略についてお話をさせていただきます。平成6年に、北海道立留萌高等技術専門学院(旧名:道立留萌職業訓練校)が廃校になりました。その施設を受け継いで、人材育成型の施設として事業展開と施設管理を行うという事で、社団法人留萌人材開発センター運営協会が、平成5年に設立されました。現在の会長さんはここにいる対馬健一さんです。設立経緯をもう少し詳しくお話いたしますと、平成2年に北海道が産業構造の変化と少子化傾向のため、道立技術専門学院再編整備計画を発表しました。道内20校ある学院を札幌、旭川等を拠点とする拠点校12(最終は8)校のみを存続させ、その他は廃校とする計画を立てました。その廃校案が地元で提示されました。当時廃校が提示されたのは留萌のほかに、遠軽、富良野、名寄、美唄、浦河、江差、岩内の8校で、これが道の方から廃校の提示を受けました。

そして、道が道立技術専門学院廃校後の施設について地域で人材育成のための施設として事業を実施し、活用するのであれば施設整備等を施して譲渡する。そして、事業実施・運営に当たっては道の職員(所長クラス)を派遣し、運営費補助金の交付(設立後5年間)そして道としての事業実施の支援、道の事業などの委託を実施するという案を出してきました。これのモデルになるのが地域職業訓練センターで、北見、滝川、苫小牧、釧路に設置されておりました。留萌の人材開発センターはこれらの4つのセンターのまねをして事業を進めました。

当時の滝川の訓練センターの所長さんは本間さんという方で、留萌にも勤務なされた方でしたので、当時五十嵐市長が相談に行った時に、受けた方が良いと言われて帰ってきたそうです。その後、これらを受け入れる為に、留萌地方職業能力開発推進協議会を立ち上げ、北海道に対して人材育成型施設として活用する旨の意思表

第10回 9月12日(水) 天候/晴

示を表明しました。その後、留萌市人材開発センターの開設が決定し、社団法人留萌人材開発センター運営協議会の設立が決定いたしました。運営費補助金は設立後5年間(その後1年ずつ延長(最大10年))。施設の愛称についてはセンター開設にあたり、平成5年一般より公募し、パワースポット(力が集まる場所)からパワスポ留萌となりました。今は、マンパワー・スポット(人の力が集まる場所)という意味からの愛称となっております。

先ほどお話したセンターの補助金についてですが、現在道からの補助金が2000万円くらい頂いておりますが、当初設立後5年経ったら打ち切ると言われておりました。私も道の職員の方から次の職を探した方が良くとまで言われました。しかし、当時道議会議員でありました現在の高橋市長が道議会において「こんなに活用されている所の補助金を切るのか。今センターの補助金を切ったらこのセンターは終わりだ。」と言っていたいただきました。それで平成13年「北海道の職業能力開発計画」において「地域の人材育成の拠点」として認めていただき、実施する人材育成事業について道が事業補助を行うとし、地域人材開発センター事業補助金が確定し現在に至っています。

主な事業としましては、

1. 職業訓練の実施(認定職業訓練とするもの)
2. 職業訓練の実施(労働安全衛生法に基づくもの・その他認定職業訓練としないもの)
3. 一般住民講座
4. 道・市町村・団体からの受託事業
5. 施設貸出し
6. その他の付随事業 の6つがあります。

1番目の職業訓練の実施ですが、これは認定職業訓練でございまして、従業員を訓練に派遣した企業に対して、補助金が交付される(認定職業訓練)。主に建設業が多く、施工管理技士受験対策等、継続学習制度(CPDS)での活用、建設関係のパソコンソフト(CAD等)の操作訓練。その他、施工技術関係の訓練があります。これにつきましては、留萌建設協会さん大変お世話になりまして、特に留萌RCにいました

井内さんには大変お世話になりました。井内さんの方に今も足を向けて寝れないと思っております。

次に、2番目の同じ職業訓練の実施でも労働安全衛生法や、その他認定職業訓練としないものですが、建設業の重機操作・フォークリフト運転、溶接・その他の危険が伴う作業関係資格。ほかには介護員養成研修、医療事務資格取得、自動車整備士養成事業、一般事務等で使用するパソコン操作技術などの事業があります。会員事業所、地元高校生、自衛隊員に対しては受講料を一部軽減もいたしております。

その他の事業としては、地元企業からのニーズに沿ったものをセンター事業として計画し、講師、教材、資料等の手配準備、補助金を使い受講料の軽減をはかっております。

3番目の住民講座の実施ですが、物作り、IT化促進(デジタルデバイト解消)となるものについて講座を実施しております。また、洋裁講座、園芸講座、お土産物作製講座、住民パソコン講座も行っております。

そして4番目の受託事業ですが、これは最近大変多くなってきて、公共職業訓練の受託でございまして。求職者のための公共職業訓練ですが、求職者に対し、事務等で使用するパソコン操作に関する知識と技能を取得させる訓練で、3ヶ月間行い、定員が20名で年間6本実施しております。ほとんどがパソコンの訓練ですが、中には介護の養成研修とか、その様なものも行っております。受講料は無料(テキスト代、検定料等は受講生負担)で雇用保険受講中の者は、訓練期間中に需給期間が終了しても、訓練が終わるまで延長されます。受講手当、通所手当等が支給されます。今年度のパワスポ留萌の事業に付きましては、皆様に配布したセンター機関紙パワスポ留萌に掲載されております。

お時間となりましたので、この辺で終わります。本日はありがとうございました。